



学生の声

キャリア・チェンジへの道

2006年度卒業(経営戦略専攻) 織部 公子

私は中学卒業後単身で渡米し、米国の高校と大学を卒業して帰国しました。帰国後は関西学院大学総合政策学部に入籍し卒業、卒業後は就職活動で偶然に知った外資系の医療機器製造輸入販売会社が販売する製品の技術に強い魅力を感じ、営業職として入社しました。その後他社からマーケティング職のオファーをいただき転職して、さらに新事業部の立ち上げ業務に携わるために声を掛けていただいた企業に転職するといったまさに Job Hopper のように転職を繰り返してきました。新事業部の立ち上げを終え、プロダクト・マネージャー職に就いてしばらく経った頃から、「ただがむしやらに与えられた職を全うする」といった生活や仕事を一度整理するためにも、また他業界や職種を客観的に知るためにもビジネス・スクールに行きたいと思うようになりました。関西学院ビジネス・スクール(IBA)では、英語での授業があることから海外に行く必要がないこと、各分野の優れた教授陣が教えて下さること、そして早期卒業プログラムがあること等が主な入学の志望動機となりました。IBA の最大の魅力は、日本にいながら英語でビジネスが学べること、少人数制の授業体制から生徒と教授が一体となってディスカッションやディベートが出来ることにより、多種多様な考え方を身に付けることが可能であることだと確信しています。卒業後はワクチンを輸入し販売する製薬会社の事業部で、プロダクト・マネージャーの職に就いています。IBA に入学するまでは「木を見て森を見ず」といった日々の業務が、現在では事業・会社レベルの戦略、また産学連携の一環として等幅広い視野を持って日々の仕事に取り組めるようになったと思います。また、時代や業種が異なっているにもかかわらず、IBA で教えていただいた過去の国内外の事例の成功例や失敗例を参考に、新たな戦略や戦術の立案をするようになりました。ご指導およびご支援をいただいた先生方やクラスメート、友人や家族に深く感謝するとともに、IBA で教わった数々のことを無駄にすることなく今後の Career Development につなげていけるように努力したいと思います。



公認会計士試験合格体験記

2006年度卒業(会計専門職専攻) 谷澤 太一郎

今年是新試験制度1日目ということもあり、新たに加わった租税法や改正会社法の対策、他の科目も問題傾向の変更が予想されるなど、受験生の負担は大きかった。逆に、短答式に合格すれば2年間免除され、論文式も科目合格制が設けられ、改正による利点もあった。

そこで、私は将来役立つ勉強は試験後に勉強し、本試験までは試験のための勉強に集中し、絶対合格しようと決心した。計算科目は毎日解いて、間違えたところはノートにポイントをまとめて後で見直せるようにした。理論科目は論点の意味を理解しながらテキスト、法規集等を何回も読み、記憶の定着を図った。

今、合格して感じることは、1つ目は普段の成績に一喜一憂せず、淡々とこなすことである。実際はなかなか難しいが、大切なのは本番でできることであり、間違えたところは次までにできるようにしなければならない。そう思うと精神衛生上もよいと思う。2つ目は大きな穴は作らないことである。この試験は相対試験であり、総合得点による一括判定である。得意科目があることはいいことだが、本番ではどのような問題が出題されるか分からないので、出来るだけ不得意科目をなくした方が、捨てる点はなるべく取り、みんなが出来るところで取りこぼしのないようにすることが出来ると思う。私の場合、直前期は毎日全科目を論点もれがないように項目をチェックして本試験までにすべて終わるように逆算して行った。3つ目は、月並みではあるが最後まで諦めないことである。自分の成績が思うようにならず、実際に合格できるまでは勉強しても本当に合格できるのか不安になる。また、本試験でも手ごたえは全然なく駄目だと何回も思った。しかし、それでも諦めず毎日勉強し、試験終了まで出来ることはすべてやることで合格へ近づくことができると思う。



最後に、私は不安と緊張の中いかなる結果も受入れる覚悟だった。その結果、掲示板に私の名前があることを発見した時、歓喜と共に今までやってきたことが報われたという安堵の気持ちでいっぱいになった。あの瞬間は一生忘れないと思う。これまで支えてくださった先生方、家族、友人などの周りの方へ感謝するとともに、1人でも多くの方が合格の瞬間を迎えることを願う。